



園だより

文京区立第一幼稚園
2022年度5月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

子供たちを見守る藤とこいのぼり

園長 田村 秀子

新緑がまぶしい季節となりました。園庭のイチヨウやカエデ、エンジュ、ブドウなど、それぞれの新芽がそれぞれの緑色で美しく輝いています。そして今年は砂場の横にある藤の花が、何十年ぶりかで10房以上の花を咲かせてくれました。花びらを拾って遊ぶ子もいます。

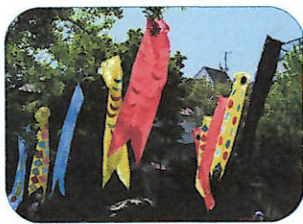
この藤は、明治20年に誠之小学校の中に設置された誠之小学校附属幼稚室が、明治30年に阿部正恒様のお力添えで今の場所に東京で初めての独立園舎を建てた時、当時の成瀬勝文園長先生の岳父様から寄贈されたものだそうです。その後、株分けして誠之小学校にも植えられ、日比谷公園にも植えられたということですが、今は第一幼稚園の藤だけが残っています。植えられてから125年を生き抜いてきた藤です。2年前にも花が一つ、二つ咲きましたが、去年は咲きませんでした。それで隣のアオギリの木にからみつくように伸びている蔓を主事さんと一緒に高枝バサミで切ったり、根元に草木灰や腐葉土を入れたり、アリが巣を作っているかもしれない幹の穴に防虫スプレーをかけたり、「大丈夫？」と幹をなでたりしてみました。そんな関わりが功を奏したのかもしれませんが。

90周年の頃には卒園生が藤の花で遊んだ思い出を語り合っていたという記述がありましたが、最近では花は咲かなくなり、葉と蔓だけが伸びていました。本園に長く勤務する職員も「こんなに藤の花がたくさん咲いたのを見たのは初めてです」と驚いていました。私も風に揺れる花を見ながら、時を超えて花を咲かせる植物の生命力に感動しました。藤の木はずっとここで子供たちを見守ってくれていたんだなと思いました。



屋上には大きなこいのぼりが泳ぎ始めました。子供たちは風が止まって垂れ下がったこいのぼりに触りながら、「風、来るといいね」「こいのぼり、がんばれ」と応援していました。そして風が吹いてこいのぼりが勢いよく泳ぐと「やったー！」と喜び、「こいのぼり、がんばれ」とまた応援していました。「こいのぼりって口から風を食べてるんだ」とつぶやいている子もいました。子供なりの感じ方ですね。

非常事態宣言が出て幼稚園が休園した時、「屋上にこいのぼりが泳いでいるのを見ると元気が出ます」と言っていた親子がいました。また去年は「いつも学校の屋上から幼稚園のこいのぼりを見て元気を出してるんだ」と言っていた小学生もいました。こいのぼりには不思議な力がありますね。子供たちが作ったこいのぼりや、こいのぼりを持って元気に遊ぶ姿を見ていると、大人も元気をもらえる気がします。



幼稚園の園庭には、年長組の子供たちが初めてグループ製作をしたこいのぼりも泳ぎ始めました。カラービニールの色、うろこの紙、うろこの形など、友達といろいろなことを相談して決め、型紙で型をとって形を切り抜いたり、色合わせを考えて並べたり、セロハンテープでしっかり貼ったりなど、力を合わせてやり遂げたようです。

また年少組、年中組はシールを貼ったり、糊で折り紙を貼ったりして作ったオリジナルこいのぼりを持って、嬉しそうに走っています。

一人一人がこいのぼりのように伸び伸びと自分らしく動き、一つ一つ力をつけていく姿をしっかりと見守り、小さな成長も認める言葉をかけて、よりたくましく育つよう支えていきたいと思います。そして5月31日には園内で135周年のお祝いをし、第一幼稚園の歴史に幼児なりに興味をもったり、様々な方々に感謝の気持ちをもったりできるようにしたいと思います。



園だより

文京区立第一幼稚園
2022年度5月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

子供たちを見守る藤とこいのぼり

園長 田村 秀子

新緑がまぶしい季節となりました。園庭のイチヨウやカエデ、エンジュ、ブドウなど、それぞれの新芽がそれぞれの緑色で美しく輝いています。そして今年は砂場の横にある藤の花が、何十年ぶりかで10房以上の花を咲かせてくれました。花びらを拾って遊ぶ子もいます。

この藤は、明治20年に誠之小学校の中に設置された誠之小学校附属幼稚室が、明治30年に阿部正恒様のお力添えで今の場所に東京で初めての独立園舎を建てた時、当時の成瀬勝文園長先生の岳父様から寄贈されたものだそうです。その後、株分けして誠之小学校にも植えられ、日比谷公園にも植えられたということですが、今は第一幼稚園の藤だけが残っています。植えられてから125年を生き抜いてきた藤です。2年前にも花が一つ、二つ咲きましたが、去年は咲きませんでした。それで隣のアオギリの木にからみつくように伸びている蔓を主事さんと一緒に高枝バサミで切ったり、根元に草木灰や腐葉土を入れたり、アリが巣を作っているかもしれない幹の穴に防虫スプレーをかけたり、「大丈夫？」と幹をなでたりしてみました。そんな関わりが功を奏したのかもしれない。

90周年の頃には卒園生が藤の花で遊んだ思い出を語り合っていたという記述がありましたが、最近では花は咲かなくなり、葉と蔓だけが伸びていました。本園に長く勤務する職員も「こんなに藤の花がたくさん咲いたのを見たのは初めてです」と驚いていました。私も風に揺れる花を見ながら、時を超えて花を咲かせる植物の生命力に感動しました。藤の木はずっとここで子供たちを見守ってくれていたんだなと思いました。



屋上には大きなこいのぼりが泳ぎ始めました。子供たちは風が止まって垂れ下がったこいのぼりに触りながら、「風、来るといいね」「こいのぼり、がんばれ」と応援していました。そして風が吹いてこいのぼりが勢いよく泳ぐと「やったー！」と喜び、「こいのぼり、がんばれ」とまた応援していました。「こいのぼりって口から風を食べてるんだ」とつぶやいている子もいました。子供なりの感じ方ですね。

非常事態宣言が出て幼稚園が休園した時、「屋上にこいのぼりが泳いでいるのを見ると元気が出ます」と言っていた親子がいました。また去年は「いつも学校の屋上から幼稚園のこいのぼりを見て元気を出してるんだ」と言っていた小学生もいました。こいのぼりには不思議な力がありますね。子供たちが作ったこいのぼりや、こいのぼりを持って元気に遊ぶ姿を見ていると、大人も元気をもらえる気がします。



幼稚園の園庭には、年長組の子供たちが初めてグループ製作をしたこいのぼりも泳ぎ始めました。カラービニールの色、うろこの紙、うろこの形など、友達といろいろなことを相談して決め、型紙で型をとって形を切り抜いたり、色合わせを考えて並べたり、セロハンテープでしっかり貼ったりなど、力を合わせてやり遂げたようです。

また年少組、年中組はシールを貼ったり、糊で折り紙を貼ったりして作ったオリジナルこいのぼりを持って、嬉しそうに走っています。

一人一人がこいのぼりのように伸び伸びと自分らしく動き、一つ一つ力をつけていく姿をしっかりと見守り、小さな成長も認める言葉をかけて、よりたくましく育つよう支えていきたいと思えます。そして5月31日には園内で135周年のお祝いをし、第一幼稚園の歴史に幼児なりに興味をもったり、様々な方々に感謝の気持ちをもったりできるようにしたいと思います。